

かしこく
やさしく
たくましく

宝島だより

<http://www.toshima-sc.net/takara/>

十島村立宝島学園
児童・生徒数 18名
学校だより 6月号
令和7年6月20日発行

二項対立を乗り越える力を

校長 西田 裕之

右か左か。白か黒か。善か悪か。正解か不正解か。世の中は、このような「二項対立」で溢れ返っている。SNSが発達し、一つの情報に対し、辛らつなコメントでバトルが繰り広げられることが多くなった。面と向かっては言えないような言葉を、面識もない人たち、画面上の相手に、平気でぶつけてしまう。それによって、命を落とす人もいる。心が貧しいとしか言いようがないが、残念ながら、そのようなことが少なからず存在する令和の時代である。

割と最近のことであるが、学校がいまだにFAXを使っていることに対し、時代遅れであるといった報道がなされたことがある。その時は、学校は化石だ、くらいの論調で、完全に馬鹿にされた感があった。でも、私はそうは思わなかった。なぜならFAXは、「受け取る相手側の印刷の手間を省く」という長所をもっていると思っていたからである。

「日本の子どもたちは自己肯定感が低い」という課題がある。「自分には良いところがない」「自分に自信がない」これは確かに課題である。学校は、子どもたちの小さな一つ一つの成長を認め、励まし、次につなげてやることで、一步一步自分で歩いて行く力を身に付けてやる必要がある。それが、学校の大きな役割の一つである。ただ、である。「自己肯定感が低い」ということを、あまりにも真に受けすぎてはいないか、と、一方で思っている自分がいる。私は決して、自信満々な人間を育てたいとは思っていない。「自己肯定感が低い」ということは、裏を返せば、謙虚であるという日本人の国民性を表している、という見方もできると思っているからである。

長所と短所は表裏一体である。以前も書いたが、私は「一生懸命と思いやり」を、新規採用の頃から信条としている。でもこれは、私の短所でもあると思っている。一生懸命ということは、周りが見えなくなるということに繋がる可能性があるし、思いやりが思いやりにならなかつたことも多々ある。その度に落ち込むが、仕方がない。なぜなら、それが自分なんだから。

短所を気にしている人がいたら、それは実は長所なんだよと教えてあげる。人の短所に腹が立ったときは、それは実は、自分の鏡かもしれないと思うことにする。

人生全てバランスだと思う。偏っていることに気付き、修正できる人間が必要とされている。今の教育は、一言で言えば、「二項対立を乗り越える力」を身に付けることが求められている。子どもたちには、将来、そんな人間に育って欲しいと思う。

梅雨が明け、ラスト1か月。子どもたちみんな、1学期の締めくくりに向けて、暑さに負けず、暑さを楽しみながら、頑張ってくれたらと願っています。

防災について考えました

6月6日には、村の防災教室ということで、役場の危機管理室の方と一緒にロボットのペッパーくんが来てくれ、身振りを交えながら、地震への備えなどについて説明をしてくれました。「落ちてこない、倒れてこない、移動してこない」の3つの「ない」がそろそろ安全な場所に避難することが必要とのことでした。みんな自分のこととして考えることができた時間でした。

6月13日に台風を想定した島外避難訓練を実施しました。島内の防災行政無線放送に合わせ、校舎中庭に避難、点呼の後さらに順にコミセンへ避難する、という流れの訓練を行いました。全員が、非常時を想定し、静かに迅速に避難を行うことができました。



様々な活動を通して成長、一歩ずつ



「食に関する講話」では、栄養教諭の福留先生から、食について教えてもらいました。



水泳学習では、それぞれのレベルで泳ぎの力が成長しました。



9年生田中光結さんが砲丸投げで鹿児島市郡大会で4位となり、7月に実施される県総体に向けて頑張っています。



国際理解教育では、世界を感じました。



前期連合集合学習では、七島の同級生たちと濃密な4泊5日を過ごし、大きな学びを得ました。



＜お知らせ＞7月12日土曜日の夕方より、学校体育館にてファミリー劇場を実施します。アンサンブルの奏者が来島され、演奏会があります。スチールパンとの共演も予定されています。ぜひ御参加ください。

7月の主な行事予定

- 9日(水)後期課程期末テスト(10日まで)
- 10日(木)11日(金)上級学校説明会(参観可能)
- 12日(土)午前トカラ集会 午後ファミリー劇場(アンサンブル) ○18日(金)1学期終業式
- 13日(日)PTA合同作業(保護者のみ) ○19日(土)～児童生徒夏休み8月31日(日)まで